



australasian society of clinical immunology and allergy

(オーストラレーシア臨床免疫学・アレルギー協会)

アナフィラキシーの応急処置 (FIRST AID TREATMENT FOR ANAPHYLAXIS)

アナフィラキシーは急性重度のアレルギー反応で生死に関わる危険性があります。必ず救急疾患として処置し、即時の処置が必要です。アナフィラキシーはほとんどの場合、重度のアレルギー反応を起こすようなアレルゲン（食品、昆虫、薬剤など）に接触・摂取した後に起きます。

軽度から中等度のアレルギー反応

アナフィラキシーに先立って次のような軽度から中等度のアレルギー反応が起こることがあります：

- 顔、唇や目のむくみ
- じんましんやみみず腫れ
- 口のしびれ
- 腹痛、嘔吐（このような症状はほとんどのアレルゲンに対する軽度から中等度のアレルギー反応に共通のものですが、昆虫が誘因の場合アナフィラキシーの症状と考えられます）

処置

- 昆虫が誘因のアレルギーの場合は刺さっている毒針が見える場合はすぐ取り除く（ただしマダニの場合は取り除かない）
- アレルギー反応を起こしている者のそばを離れず、助けを呼ぶ
- 処方された薬があれば飲ませる（第二世代抗ヒスタミン薬は軽度から中等度のアレルギー反応の抑制に有効ですが、アナフィラキシーに症状が進んだ場合はアドレナリンのみが有効です）
- アドレナリン自己注射薬の有無を確認する（使い方詳細は、自己注射薬と一緒に保管されているはずの当協会の「アナフィラキシー行動計画書」に記載されています）
- 両親・保護者その他の緊急連絡先に連絡を取る

アナフィラキシー（重度のアレルギー反応）

次のようなアナフィラキシー（重度のアレルギー反応）の症状が見られるかどうか注意する：

- 呼吸困難・ゼーゼーいう
- 舌の腫脹
- 咽喉腫脹・咽喉絞扼感
- 発声障害・嘔声
- 喘鳴・咳が止まらない
- めまいが続く・失神
- 蒼白・力が入らない（特に幼児）

処置

- まっすぐに寝かせる。寝かせると呼吸が困難な場合は座らせるが、立ち上がったたり歩き回らせないようにする。
- アドレナリン自己注射薬があれば使用する（使い方詳細は、自己注射薬と一緒に保管されている当協会の「アナフィラキシー行動計画書」に記載されています）
- 救急車を呼ぶ（オーストラリアでは電話 000、ニュージーランドでは電話 111）
- 両親・保護者その他の緊急連絡先に連絡を取る
- 最初の投与後5分しても患者に反応がない場合はアドレナリンの2回目の投与を（2本目の自己注射薬があれば）行なう

どうしてよいかよくわからないときはアドレナリン自己注射薬を使うこと

患者に反応がなく呼吸に異常が見られるときはすぐに心肺蘇生（CPR）を始める

症状が喘息かアナフィラキシーかはつきりしないときはまずアドレナリン自己注射薬を使い、その後で喘息緩和薬を使う。

注 (NOTE)

- アドレナリンの投与によって生死が分かりますから遅滞なく投与しなければいけません。投与が遅れると場合によって症状が悪化し死に至ることもあります。アドレナリン自己注射薬の投与が当協会の「アナフィラキシー行動計画書」の最初の指示説明になっているのはこのためです。心肺蘇生（CPR）を先に行なうと、アドレナリンの投与が遅れたり行なわれない危険があります。
- 救急車内ではふつう救急医療隊員から酸素吸入マスクが患者に与えられます。
- アナフィラキシーの反応後は病院等での最低4時間の医学的観察が望ましいとされています。
- オーストラリア・ニュージーランドで入手できるアドレナリン自己注射薬の商品名は「エピベン」、「エピベン・ジュニア」です。「エピベン・ジュニア」はふつう生後5歳までの幼児用です。

© ASCIA 2015 アナフィラキシーについての詳細情報は当協会のウェブサイト www.allergy.org.au を参照してください。

当協会はオーストラリア・ニュージーランドの臨床免疫学・アレルギー学専門家を代表する頂上団体です。